

ジェネリック医薬品とは

医療用医薬品には同じ成分、同じ効き目でも値段の高い薬(先発医薬品)と安い薬(後発医薬品)がある。後発品は、欧米では一般名(generic name:成分名のこと)で処方されることが多いため、ジェネリック医薬品とも呼ばれている。

診療報酬の改定に伴い、ジェネリック医薬品市場は活発化している。ある調査では、2010年における医療用医薬品市場を6兆8929億円と予測しており、医療用医薬品に占めるジェネリック医薬品の割合は5.2%となる。



- ・委託先へのタイムリーな製品提供
- ・生産計画負荷を削減
- ・無理無駄のない計画の作成

製造工程と適用範囲

造粒・乾燥	異なる物質を混ぜ合わせ顆粒を作る
整粒・混合	造粒した顆粒の大きさを整え均一にする
打錠	圧縮・成型して錠剤にする
コーティング	錠剤表面にフィルムを施しマスキングする
選別	外観の不良品を取り除く
包装	

今回の適応範囲: 8工程
 対象品種: 約100種
 製造リードタイム: 2から3ヶ月間

導入経緯

生産形態は受注生産であるが、多品種少量で品目切替えが多く製造負荷も非常に高い状況だった。近年、市場は拡大し注文はさらに増加傾向にあった。

生産管理システムはあったが、計画については付属のスケジューラは日程変更時に作業単位での移動が連動できないなどの制限があり最終的にはマウスで一つずつ修正する状況だった。

結果的に生産計画はエクセルで細かく作表していたが、設備と人手の割り振りは難しく、特に数量(同梱数)により品種が多様化する。また、緊急注文や予定変更の際には計画立案者の負担は計り知れないものになっていた。

そこで、計画立案負荷を削減し、現場の無理無駄を減らしつつ、タイムリーな製品提供をするためにアスプローバを導入しました。

導入の責任者の声

エクセルによる計画立案は大変だった。毎週30~40時間程度の残業は当たり前で、何人かの製造関係者にも多くの負担を強いていた。セミナーやインターネットによって生産スケジューラの事を知り検討を開始した。

アスプローバ以外にもスケジューラの候補はあったが、初期導入コスト、また、カスタマイズをしないでも使えることを目指してる点を評価した。

導入の決定にあたってはこの業界は安定供給がメーカーとして大原則であり、ニーズに合わせてフレキシブルに対応しなければならない。社長も含め幹部の方々にスケジューラの活用に理解があったことも大きい要因である。

現状はスケジュール機能のみだが、将来的にはアスプローバで得たデータを元により厳密にMRP,KPIなどを行っていきたいと考えている。

Asprova 導入の主たる効果

見える化 納期厳守 在庫削減 稼働率向上 リードタイム短縮 スループットの向上
 計画作成効率化 計画サイクル短縮 頻繁な計画変更対応 工程情報の共有化